



令和7年10月24日

大阪狭山市長 古川 照人 様

大阪狭山市行政評価委員会  
会 長 上 甫 木 昭 春

大阪狭山市行財政改革推進プラン 2020 の令和6年度実績と総括及び今後の方針、第五次大阪狭山市総合計画実施計画の令和6年度実績及び第2期大阪狭山市総合戦略の進捗状況に対する評価及び意見について

標記について、市から提出された実績報告書等をもとに、令和7年10月3日開催の大阪狭山市行政評価委員会において意見交換を行いました。

その結果、下記のとおり、当評価委員会の評価及び意見を取りまとめましたので、提出します。

#### 記

- 令和6年度の実績については、概ね計画どおりに実施されている。
- 令和6年度で計画期間が終了した「大阪狭山市行財政改革推進プラン 2020」については、全体の目標を上回る効果額を取りまとめており、サービス向上などの効果額では測ることのできない指標も含め、一定の成果を挙げたものと考えられる。今後も切れ目のない行財政運営の見直しが必要であるため、令和7年度から取り組まれている「大阪狭山市行財政運営戦略プラン 2025」の新規項目をはじめ、継続性がある取組項目についても、着実に取組を進められたい。
- 本委員会における意見や指摘事項については、これを十分参酌し、今後の取組に活かされたい。

(個別事業における意見等は別紙のとおり)

(別紙)

## 個別事業における意見等

### 1 立地適正化計画策定事業

令和6年度に策定した立地適正化計画は、めざすべき市の将来像の実現に向け、地域特性に応じた良好な居住環境の形成やエリア特性を活かした都市拠点の形成、広域公共交通インフラの維持・向上など、主にハード面での方向性が示されているが、その実現に向けては、地域活動を担う人づくりといったソフト面での取り組みも重要となる。

立地適正化計画の策定を機に、市民参加によるまちづくりの手法も視野に入れながら、ハード・ソフトの両面における取り組みの連携のもとで、魅力あるまちづくりに取り組まれない。

### 2 クビアカツヤカミキリ防除対策事業

クビアカツヤカミキリの防除に向けては、市だけでなく、近隣自治体や大阪府、大学、民間企業、市民も含め、多様な主体が連携、協力しながら取り組みを進めていくことが重要である。

既に大阪府とも連携し、市民参加型の取り組みも進められているが、こうした取り組みが定着し、より発展していくためには、“みんなで狭山の桜を守ろう”といったメッセージを強く打ち出すなど、市民一人ひとりの心を打つ戦略的な広報も求められる。

市を含め関係自治体間では、既に様々な対策や好事例の共有が行われているので、一層の機運醸成とあわせ、最新の知見を活かした対策がより広い地域で実施されるよう、引き続き、効果的な情報発信等に努められたい。

### 3 男女共同参画推進事業

男女共同参画の取り組みが進むためには、その考え方の認知が広がり、定着していくことが重要である。

今後とも、多様な指標の動向を捉えるとともに、さまざまな交流事業や学習事業等における参加者アンケート等なども活用しながら、参加前後の意識の変化や事業効果のきめ細やかな把握に努め、事業内容のさらなる充実に努められたい。

以上